九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Insulin-like growth factor II messenger RNA-binding protein-3 is an independent prognostic factor in uterine leiomyosarcoma

安武, 伸子

https://hdl.handle.net/2324/1931784

出版情報：Kyushu University, 2017, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

KYUSHU UNIVERSITY

氏　　名：安武　伸子

論 文 名：Insulin-like growth factor II messenger RNA-binding protein-3 is an independent prognostic factor in uterine leiomyosarcoma
（インスリン様成長因子Ⅱメッセンジャー RNA 結合タンパク質 3 は子宮平滑筋肉腫における独立した予後不良因子である）

区　　分：甲

論　文　内　容　の　要　旨

子宮平滑筋肉腫（ULMS）の予後因子を明らかにするため、60 症例の外科的切除標本を再評価し、通常の臨床病理学的事項の解析と、インスリン様成長因子Ⅱメッセンジャー RNA 結合タンパク質 3（IMP3）、ホルモンレセプター、細胞周期調節因子のタンパク質発現を免疫組織化学染色法を用いて解析した。加えて、メディエーター複合体サブユニット 12（*MED12*）遺伝子変異解析も行った。単変量解析では進行病期（$p<0.0001$）、加齢（$p=0.0244$）、IMP3 の高発現（$p=0.0011$）が有意に予後不良予測因子であった。多変量解析では、進行した病期（$p<0.0001$）と IMP3（$p=0.0373$）が独立した予後不良予測因子であった。一方、細胞周期マーカーとホルモンレセプターの発現、*MED12* 遺伝子変異（ULMS の 12%）は予後因子ではなかった。結論として、子宮平滑筋肉腫における IMP3 の発現は予後不良の要因になり得る。